

この原稿はモルディブ洋上に停泊している「MY MARIANA」で書いている。雨季の天候に影響され、思い通りにルートを巡ることができない取材となったが、以前ガイドをしていた頃に慣れ親しんでいた南マレ環礁のポイントに潜ることもでき、私個人としては大変満足をしている。もちろん、ジンベイザメやマンタも無事に撮影することができた。船から見渡す島々(リゾート)の様子は水上コテージなどの出現で、とても変わってしまったけれど、水中は昔と変わらずたくさんの魚が迎えてくれた。

私にとって今年の夏は、とても特別なものとなった。まず、ドキュメンタリー番組「情熱大陸」に出演できたこと。実際にこの企画が上がったのは約2年前のことだった。当時、渋谷にあった制作会社に、緊張の面持ちで出向いた日のことを今でも鮮明に覚えている。私を見つけてくれたのは、ディレクターの野村さんだった。以前、週刊誌フライデーに掲載したオーストラリアで撮影したホオジロザメに写真が、そのきっかけとなった。今回もホオジロザメを南アフリカで撮影する方向で話が進んでいった。2度目の打ち合わせを終えた後、私はムービーカメラマンの古島茂さんに「撮影の際はよろしくお願いします」と連絡をした。古島さんは私にとってこの業界のアニキ的存在で、タフで一番信頼をしているカメラマンだ。以前もイギリスでのウバザメの収録の時もお世話になった。どんなに厳しい状況であっても、古島さんとなら、撮影を成功できると感じさせてくれる先輩だ。

企画自体が成立するまでに、結局2年の年月が必要となった。その間も、野村ディレクターから時折連絡を頂き、たまに、一緒に飲むこともあった。

番組放送後、たくさん頂いたメールの中に、「等身大の鍵井で良かった」「普段どおりの感じだった」という感想が多かった。これは、野村ディレクターと、「飾らずに、いつもの調子でよろしく」と約束していたことだった。2年という歳月で、野村ディレクターがカメラが回っても自然体でいられるように、お酒を飲んででは特訓？ してくれた(笑)

私は今まで撮影することばかりに一生懸命だった。写真を売ることよりも撮ることばかりに集中していた。また、雑誌以外の他のメディアへの露出などをあまり考えたことがなかったが、今回は良い経験をさせて頂いた。

そして、鎌倉に居を移した。私たち夫婦は2年前に息子・瑠詩(りうた)の誕生を機に、文京区の家を借りた。便利で環境も良く、なかなか気に入っていた。講談社などの出版社なども近くにあり、フリーランスの私にとって仕事だけを考えるとベストの環境だった。しかし、息子が成長するにつれ、もう少し自然の環境なかで育てたいと思うようになっていた。

初夏、私たち夫婦は、以前から候補に考えていた鎌倉・湘南エリアに出掛けた。不動産の担当の方と一緒に、葉山方面のいくつかの物件を見て廻った。そして、何となく、もう一度来ますという約束を取り付け、翌週にも足を運んだ。

当日は少し雨交じりの日だった。確か2件目に案内された物件が、購入することを決めた家だったと思う。まだ、家主が住んでいる状態で家の中を見せもらうことになり、滞在時間は他の家よりも短かった。物件の下見を終え、車に乗り込んだ後、妻のまち子に「どう思う?」と聞くと「とても良いと思う」という答え。そして「実はかなり気に入っている」「私もここなら良い」と相手の様子

を伺いながら問答して行くうちに、実はお互いがとても気に入っていることに気付いた。その後は、まるで堰を切ったかのように、「あそこが良い!! あそこじゃなきゃイヤだ!」と、あっと言う間に購入の決意を固めた。ふたりの意見がいつになくピッタリだったことに驚いたが、このように一生のうちである意味、一番大きな買い物でさえも、「潔く決断する」ことに付き合ってくれる妻に大変感謝している。

この家を決めた理由はいくつもあった。家主だったご夫婦ともお話できたのも良かった。おふたりはオーシャンマンで、家も海を感じさせるスタイルを持っていた。2階のウッドデッキからは、少し遠いながらも七里ガ浜の海を望むことができる。そして私たち夫婦が何よりも気に入ったのが家の裏がちょうど鎌倉山だったこと。様々な昆虫はもちろん、季節にはホタルも見られるという。また、ハイキングコースもありフキノトウやタラの芽も採れるそう。緑多き環境なので、空気が美味しい。そしてウッドデッキに立つと海渡る風が優しく頬を撫でてくれる。

私は例年通り、8月の一ヶ月間はインドネシアのメナドのミンピ号クルーズに乗船していた。情熱大陸の放映日も引越しの日も私は日本に居なかった。9月14日から全国を巡るキャノンギャラリーでの写真展は、ほとんどその1ヶ月間で撮影された写真で構成されている。メナドの海で長年撮影を続けてきた集大成を手掛けるように私は夢中になって撮影の日々を過ごしていた。まるでジェットコースターに乗っているような今年の夏だった。私にとって、忘れられない8月になった。

青いヴェータ⁰⁵ 写真/文 鍵井靖章 Photo Column

Over This Summer

www.web-lue.com

Web-lue 2006. Autumn

※「ヴェータ」とはサンスクリット語で「知識」もしくは「科学」を意味する
©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます